

平成28年8月4日
(資料提供)

(事務担当)
所属名：農林総合研究センター
農業試験場 総合研究部
病害虫防除室
直通：257-6972

平成28年度病害虫発生予報第5号について

今後発生が予想される、水稻、大豆、果樹、野菜・花きの病害虫の発生時期や発生量、防除上の注意事項などを掲載する。

1 予報期間 8月上旬～8月下旬

2 予報内容

(1) 水稻

斑点米カメムシ類の発生は多と予想される。水田への侵入量が多いため、出穂後の防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。

穂いもちの発生は並と予想される。出穂前後に降雨があると発生が拡大するので、この時期の防除は必ず実施する。

紋枯病の発生はやや多と予想される。防除を実施していないほ場では、発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

コブノメイガの発生はやや多と予想される。晩植や直播のほ場等では集中産卵による被害の発生が懸念される。ほ場巡回に努め、発生を認めたら直ちに防除を実施する。

ツマグロヨコバイの発生は多と予想される。他の病害虫と同様に基幹防除を徹底する。

(2) 大豆

アブラムシ類、ハダニ類の発生はやや多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

カメムシ類の発生はやや多と予想される。幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

フタスジヒメハムシの発生はやや多と予想される。汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

(3) 果樹

ナシ黒斑病の発生はやや多と予想される。ポリオキシシンおよびジカルボキシイミド剤は耐性菌が県内に広く分布しているため、散布回数をそれぞれ年1回にとどめる。

リンゴ斑点落葉病の発生はやや多と予想される。降雨前後の薬剤防除を徹底する。

ハダニ類の発生はやや多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。発生源となる下草を刈り取った後、防除する。

(4) 野菜・花き

軟腐病の発生はやや多と予想される。作業中は作物を傷つけないように注意するとともに、害虫防除を徹底する。

オオタバコガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの発生は多と予想される。若齢期の幼虫の防除を徹底する。

アブラムシ類、ハダニ類の発生はやや多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。